

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	照明デザイン
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	電子・電気科	コース名	電気工学コース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	60時間
単位数	4単位			授業形態	講義
教科書/教材	新しい照明ノート/大山松次郎 著 オーム社				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	角田 安雄	実務経験の有無・職種	有・照明デザイン、計画		
<b>学習目的</b>					
この科目を受講する学生は、デザインとは創造的思考方法を追求することが基本で、すべてのデザインに当てはまることであることが理解できるようになる。又、デザイン作業はグループ活動でもあり、そこには様々な役割分担をしなければならない。グループとは言っても横並びの集団ではなく、権限を持つグループリーダーの役割は重要である。それは組織の原点であり社会組織へと繋がる。これらのことを照明デザインというジャンルをベースに学ぶことができる。					
<b>到達目標</b>					
この科目では、「光とは何か」を基本テーマに考えることの重要性を理解してもらう。照明デザイン実習活動の中で、グループ（組織）での役割担当する中で自分を位置付けること、業種・企業・職種を自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること、社会にでてから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどができるようになることを目標にしている。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを、意識しながら授業を進める。適時指名して授業内容などを要約し人前で説明できるように、自分自身の言葉で語り、構築できるようになることを目指す。				
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。社会の動きや大学生の状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画（1回～10回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	光について考える	人は光をどのように感知して処理しているかを理解する			
2回	光を説明する用語を説明する	用語を用いて光を説明できる力を養う			
3回	光が人に与える影響について	光から得る感情の起伏はすべて太陽が基本であることを理解する			
4回	デザインとアートの違いについて	対人活動か個人活動の違い及び複合活動区別を理解する			
5回	照明デザイン実習のガイダンス	グループ活動である事を理解する 製図法（三角法）を理解する			
6回	光源の種類を説明（白熱灯）	発光方法の違いを理解する			
7回	光源の種類を説明（蛍光灯）	発光方法の違いを理解する			
8回	光源の種類を説明（ハロゲン）	発光方法の違い、（ハロゲンサイクル）を理解する			
9回	光源の種類を説明（HID,LED）	LEDの特性、利点等重要性を理解する			
10回	平均照度の考え方について	実際に教室を計測、計算して必要性を理解する			
11回	照明手法（1）	直接照明、間接照明の違いを理解する			
12回	照明手法（2）	人の感情の変化を理解する 実例写真等を使用して理解する			
13回	照明手法（3）	間接照明の活用、タスクアンドアンビエントの効果を理解する			
14回	照明手法（4）	鉛直面照度確保の重要性を理解する			
15回	まとめ	前期のまとめ及びデザイン実習のプラン最終期限			